

第1回東海村学区審議会会議録

1 開催日時	令和元年11月25日(月曜日) 午後6時30分から午後7時55分まで
2 場所	東海村役場原子力視察研修室
3 出席者	委員(14名) 大内 隆彦委員, 加藤 孝幸委員, 藤田 諭委員, 青山 絵理委員, 宇都野 敦子委員, 丹 大輔委員, 船越 賢一委員, 佐藤 健太朗委員, 安部 朋幸委員, 中村 宏委員, 照沼 和弘委員, 飛田 順一委員, 岡崎 光也委員, 萩谷 智徳委員 教育長 川崎 松男教育長 事務局(5名) 庄司教育部長, 池田学校教育課長, 山本学校教育課長補佐, 所学校教育課係 長, 大内学校教育課主事
4 欠席者	なし
5 公開又は 非公開の別	公開
6 非公開の 理由	—
7 議題	(1) 会長, 副会長選出 (2) 諮問について
8 配布資料	次第 東海村学区審議会委員名簿 第1回学区審議会配布資料一覧 諮問書 東海村立小・中学校学区マップ 中央土地区画整理事業地内学区図 東海村コミュニティセンターと自治会区割図 東海村立小学校児童数の推移 東海村立中学校生徒数の推移 小学校学区別年齢別人口の推移 東海村立小中学校の児童生徒数, 施設の概要
9 発言内容	■進行: 学校教育課長 1 開会 2 委員委嘱 3 教育長あいさつ 皆さんこんばんは。第一回東海村学区審議会にお集まりいただきましてあ りがとうございます。 今回は, 中丸小学校, 村松小学校, 照沼小学校の学区の見直しについてご 審議いただければと思います。ご承知のとおり, 令和2年度末には中丸小学 校, 村松小学校間にある橋も開通し, 中央区画整理もほぼ終了に近づき, フ ローレスタ須和間もひたちなか市と道路がつながり, 住宅が増えてくること が予想されます。

	住宅が増えることで、中丸小学校の教室の関係、どれだけ収容ができるかというのがあります。そして1番に、子どもたちの登下校の安全を第一に考え、どうすればそれが確保できるか、委員の皆様からご提案いただければと思います。また、細浦に沿って、村松小学校の目の前まで照沼小学区となっており、昔の地形に基づいたものですが、現実性が乏しいので、そこも含めてご審議いただければと思います。 子どもたちの安全が第一ですので、そういった視点から、学区の見直しの検討をお願いいたします。 4 委員紹介 5 会長、副会長の選出 会長を加藤 孝幸委員、副会長を萩谷 智徳委員に決定。 ■進行：加藤会長 6 議題 (1) 諮問について 事務局より説明。 【質疑・意見】 委 員 学区編成の時期はいつごろになるのでしょうか。 事務局 年度内に答申をいただき、1年間の周知期間を置き、令和3年度当初と考えております。 委 員 現在通っている児童生徒について、学区が変更になった場合には、学校を選択することは可能ですか。 事務局 希望する学校に通えるようにしたいと考えています。 事務局 再度の確認ですが、今回の審議会につきましては、喫緊の課題である中央土地区画整理事業がある中丸、村松小学区の境に限定してご審議いただき、その他の学区については、喫緊の課題が生じた場合に、随時別の審議会を開催いたしますので、よろしくお願いいたします。 委 員 区画整理で最も入り組んでいるのがこの地区になるのでしょうか。 事務局 現況と学区のラインが大幅に変わってしまいますので、住民の方、保護者の方も戸惑いが多いと思います。あと数年で区画整理が完成してしまうので、早急に見直しをしていかなければならないところです。 (2) 学区の状況について 事務局より資料に基づき説明。 【質疑・意見】 委 員 児童数の推移に関する資料を見せいただきましたが、児童数を平準化する意図はあるのでしょうか。 事務局 今後、フローレスタ須和間や中央区画整理事業の進捗に伴って住宅数が集中して増加した場合には、教室数が足りなくなる可能性もありますが、現時
--	--

点では教室が足らなくなる見込みはありません。

事務局

学校の児童生徒数の平準化のために再編をするのではなく、学区割を考える際には、繰り返しになりますが、大きく2つ、まずは通学時間と距離、次に安全と分かりやすさということを基本原則として検討していきたいと思います。ただし、学校の容量はありますので、検証はさせていただきたいと思っています。

また、先ほどの事務局からの説明で「指定校変更」という名称が出ましたが、これは、原則、住んだ場所の学区に応じて学校は指定されますが、特殊な事情があった場合には、指定された学校を変更できるという制度です。例えば、今回の地区内で申し上げれば、産業道路沿いに照沼小学区があったかと思いますが、明らかに村松小学校が時間的・距離的に近いので、学校の指定を変更し、村松小学校に通っていただく、といったものです。あくまで特殊な扱いであり、基本的には学区に応じて学校は指定されと考えていただければと思います。

委員

現在の学区割はいつ頃決めたものなのでしょうか。

事務局

昭和57年度に村松小学校が完成した際に、白方小学区との境を決めたものが最後です。

委員

照沼小学区が村松小学校の目の前まで来ているのは、細浦に関係しているものと思いますが、昭和57年度の村松小学区編成の際に変更はなされなかったのでしょうか。

事務局

おそらく、その当時住んでいる方がいらっしゃらなかった等の理由から、地形に沿った形で決定したのではないかと思います。

委員

原研通りを境にして、白方小学校と村松小学校が分かれています。こちらはいつ頃決定したのですか。自治会としては、原研通りの向こう側にも「真崎区」があり、親（自治会）と子（白方小学校）がバラバラになってしまっています。ただしそれは原研通りという交通量の多い道路を子どもに横断させないよという意図だと思い、了解していますが。また、現在の白方小学校の場所だと、距離としては村松小学校の方が近いだろうという声もあります。

事務局

昭和57年度に村松小学校が完成するにあたり、審議会という形ではないですが、協議会ということで、常会の方に集まっていただいて、検討して決定したとの記録が残っています。その際に、安全を考え、原研通りを渡らないという決定になったものと思います。

委員

廃品回収などの学校行事や子ども会行事で地域の力をお借りすることもあり、自治会と学区は極めて密接な関係があるかと思いますが、ここで学区を決めることは自治会区の境も決め直すことにもなるのでしょうか。

事務局

実際、多くの市町村では、学区割を昔の班割り、自治会区割で決めてきたと思いますので、密接に関係していると思います。ただし、この審議会の中

では、自治会区割の見直しは考えていません。現況の自治会区割の中で、どのように学校と関係を作っていくかということは別に検討はしていきますが、見直しということは考えていません。

委 員

子ども会は、現在村内でも弱体化しており、舟石川中丸区では子ども会への加入率が低くなっています。また、自治会内で学区が異なる児童が混在してしまうと、子ども会の在り方というのも混在していく可能性があります。自治会に存在している子ども会、学区の関わりということも考慮していただきたいです。子ども会は、子どもたちが地域につながりを持つファーストステップであると思うので、学区と自治会の境を全く別のものとして分けてしまうことには危機感があります。また、コミュニティに開かれた学校を目指してゆくのであれば、地域と小学校のつながりはより濃くなる可能性があります。

事務局

地域との関わりというのは大きなところですので、今回皆様からいただいたご意見を次回お示しする事務局案を作成する際に参考にさせていただきたいと思います。地域との関係性というのは、子ども会をはじめ、青少年健全育成など様々な活動があると思いますので、皆様から情報をいただき、基本原則と照らし合わせながら、決めていきたいと思います。

委 員

中丸小学区の子ども会はどのような状況なのでしょう。

委 員

長堀区ですが、社宅という特性や子ども会の役員などの課題もあり、長堀子ども会は解散し、新たに「長堀会」という組織で活動しています。

委 員

舟石川中丸区は引っ越してこられる方も多く、自由加入で子ども会加入率は20%程度となっています。

委 員

自治会加入率もすごく低くなっていますね。子ども会も解散しているということで、そことどういう関係で学区を考えていくかということは非常に難しいと思いますが、学校教育課長がおっしゃっているように、私たちの意見が次の案につながっていくかと思います。

各学校で、一番遠いところから通っている児童はどのあたりから通っているのでしょうか。

委 員

中丸小学校では、例えば、南台団地の一番奥から40分～50分くらいかけて通っている児童もいます。

委 員

村松小学校では、旧村松小跡地が一番遠いところかと思いますが、時間にして40分くらいのところから通っている児童がいます。

委 員

「一般的な小学生では、どのくらいの時間で通えるといいね」という基準はあるのでしょうか。

事務局

国の基準では、小学校で4キロ、中学校で6キロが通学可能な距離とされています。

委 員

先ほど自治会との関わりというお話がありましたが、コミュニティスクールで協力する団体は、基本的には学区内の自治会、村内の自治会どちらでしょうか。

事務局

コミュニティスクールは「学校に関わる地域の方々」であるため、基本的には、学区内の自治会や関わりのある組織と連携を、という形です。

委員

となると、これから先、コミュニティスクールで地域とのつながりを強めていきたいと思いますという時に、学区内にどの自治会があるのかが分からないと協力しづらいのではないかと思います。

事務局から説明の中で、人身事故のデータを提示していただきましたが、その中で死亡事故や重大事故が起きたところがありますか。そういった事故があった箇所については、配慮したいなと思いました。

事務局

死亡事故は2箇所ありますが、児童生徒の関係する事故ではありません。

(3) その他

委員

皆さんからアイデアをいただき、それをベースに事務局に案を作成していただくという形をとっていきたいと思います。皆さんから「こうしたらいいのではないか」とのご意見、ご提案をいただければと思います。

委員

審議の進め方についてですが、できれば事務局で作成した学区案の青写真を見せていただいたほうが審議しやすいと感じるのですが。

事務局

事務局案については次回お示ししたいと思っており、本当のところ、青写真が固まっているわけではないので、今回皆様からご意見をいただければ、それを踏まえて次回案をご提示したいと思っているのですが、いかがでしょうか。

委員

案を作成する際、基本として考えるところをご説明いただけますか。

事務局

青写真というものの考え方ということでよろしいでしょうか。

照沼小学区については、時間・距離からして、村松小学校区のほうが近いのではないかと考えています。区画整理区域の上の方（東海駅付近）については、安全面、時間、距離、分かりやすさといったところから考えていくと、幹線道路等に沿って、学区割を決まっていこうかと思います。

先ほど事務局からの説明の中で、各学校からの1キロメートルの範囲についてお示しした資料があったかと思いますが、あくまで直線距離ですが、五反田線からは中丸小学校、村松小学校への直線距離はあまり変わりません。交通事故の状況についても、五反田線沿いでは死亡事故は起きておりませんし、人身事故についても、児童生徒に関わる事故ではありません。

委員

先ほどのコミュニティスクールのお話で、舟石川三区自治会では中丸小学区に指定されている家庭もあり、実際、保護者がどちらのコミュニティスクールに参加しているかは分かりませんが、そのまま受け取ると、保護者は村松小学校のお手伝いに行かなければならない。そのあたりを考えて学区と

自治会区を同一にするという考えも必要なのかなと思います。

委 員

自治会と学区は切っては切り離せないと思います。照沼小学区の左側ラインは川根区と押延区の境目となっています。現状、人はほとんど住んでいないので、ここのラインを切り離すとしても問題はないかと思いますが、将来に禍根を残すことになるので、ここは切り離せないと思います。

委 員

今回の審議会では、資料1の赤枠で囲まれた地域のみが対象ということでよろしいですね。駅前大通りで左右にきれいに切ればわかりやすいのかなと思うのですが。

委 員

駅前で左右に分けると、長堀区は二つに分かれてしまいます。

委 員

舟石川中丸区も分かれてしまいます。

委 員

住んでいる方のことを考えず、きれいに境を作るとなると、やはり大きな道路で区切っていくのが分かりやすいと思うのですが。

委 員

まずは分かりやすさと児童の安全を考え、後から自治会を寄せてもらう、住所も地名も変えてもらっては。

委 員

フローresta須和間から中丸小学校への通学路を昨年度、変えたところなのですが、「どこで道路を渡らせるか」と考えたときに、やはり大きい道路で分けておけば、道路を渡る必要がないということで、安全面からもよいのかなと思いました。現在の学区ですと、長堀区の児童が病院の前の道路を渡っていくことになり、交通量も多い道路ですので、不安もあるかなと思いました。

委 員

将来的には区画整理により道路ができたり、谷の形が変わったりと思うので、今後の計画も含めた新しい情報の反映された地図を提示いただいた上で検討していきたいのですが。

事務局

資料3が区画整理区域の完成後の地図となっています。地図内の濃い緑色の部分が谷、総合福祉センター「絆」下の緑地としてそのまま残ります。これから作るのが公園と調整池で、最終形としては、白いラインが道路となります。村松小の目の前、照沼小学区のところは宅地となりますので、このラインの方が複雑になってきます。

委 員

現在の照沼小学区の児童が仮に照沼小に通うとしたら、中丸小学区を通っていくことになりますよね。

委 員

そうですね。現在はいませんが、実際通うとなれば、1時間くらいかかるだろうと思います。

教育長

実際、村松小付近に住んでいる家庭は、中丸小学区ではありますが、村松小学校に通っています。

委 員

	今回の区画整理に関して、住居変更等の予定はあるのでしょうか。例えば「村松」というと大変広く、どこか分からないという状況です。 事務局 住民課に確認したところ、現在、予定はないとのことですが、街ができると、住所がわかりにくくなったりもするので、今後変更する可能性はあると思います。 委員 自治会のお話で、学区と自治会区の整合性があつたらいいなというのは、自治会の仕事をしていて常々思っているのですが、古くから住んでいる人と新しく越してきて住んだ人には意識の差があり、古くから住んでいる人の中には、「新住民は常会にいけない」などという班もあり、大変難しいところです。そこにさらに学区割の編成ということで、さらに難しい。学区の編成と自治会の編成は分けて考えないと、話は進まないと思います。自治会の話は完全に切り離して考えるべきで、今回は学区の見直しにしばって進めたほうがよいと思います。 教育長 これまでは、すべて旧道で分けて学区を編成してきました。なので、白方であっても、舟石川小学校に行ったり、石神小学校に行ったりというようにしてきました。1番は大きな道路で区切って、シンプルに、どなたでも分かるように分けたほうが、子どもたちも住んでいる人たちも分かるし、登下校の安心安全につながると思います。あまり自治会を考えると、いつまでたってもできないと思います。子ども会も、もともとは学区があつて、そこから自然発生的に成り立ったものですので、いろいろと案出していきながら考えていただければと思います。 ■進行：学校教育課長 7 その他 (1) 次回の審議会の日程について 1月22日(水)午後6時30分から、役場会議室での開催を予定しております。詳細が決まりましたら追って通知をお送りさせていただきます。 8 閉会
10 結 果	—

(注) この様式により難しいものにあつては、これに準じて適宜調整し、作成すること。